

「高齢者の日常生活に関する意識調査」結果（概要）

1 調査の目的

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付高齢社会対策担当では、昭和49年以降、高齢者問題に関する調査を毎年実施しており、平成6年度から、より効果的、体系的な調査を実施するため、高齢社会対策の施策分野別（5分野）について、一般高齢者の意識に関する総合的な調査を行う「高齢者対策総合調査」を各分野別に原則5年毎に、計画的に実施している。

本年度は、平成6年、平成11年、平成16年、平成21年に引き続き、第5回目となる「高齢者の日常生活に関する意識調査」を実施したものである。

本調査は、日常生活の状況、生活の満足度、衣食住をはじめ、家事、外出、日常的楽しみ、日常生活の情報に関する満足度など、高齢者の日常生活全般の実態と意識を把握するとともに、前4回の調査と時系列分析を行い、今後の高齢社会対策の推進に資することを目的とする。

2 調査対象者、調査事項、調査方法等

（1）調査対象者

全国の60歳以上（平成26年10月1日現在）の男女

（2）調査方法

郵送配布・郵送回収法

（3）調査事項

1. 調査客体の基本属性に関する事項
2. 基本的生活に関する事項
3. 衣類に関する事項
4. 食生活に関する事項
5. 住宅に関する事項
6. 日常の行動・意識に関する事項
7. 日常的楽しみに関する事項
8. 日常生活情報に関する事項
9. その他

（4）調査実施期間

平成26年12月4日～12月26日

（5）標本抽出方法

層化二段無作為抽出法

(6) 標本数、有効回収数、回収率

1. 標本数, 有効回収数, 回収率

標本数 6,000人

有効回収数 3,893票 (64.9%)

2. 調査不能数, 不能内訳

調査不能数 (率) 2,107人 (33.4%)

不能内訳

返 戻	38	不完全回答	9
そ の 他	2,060		

(7) 調査委託機関

一般社団法人 中央調査社

(8) 調査の協力者

本調査は、内閣府政策統括官（共生社会政策担当）の委託研究の一環として、一般社団法人 中央調査社が以下の学識経験者の協力を得て実施した。

小林 江里香 (東京都健康長寿医療センター研究所主任研究員)

佐藤 厚 (法政大学キャリアデザイン学部教授)

直井 道子 (桜美林大学大学院老年学研究科特任教授)

安村 誠司 (福島県立医科大学医学部教授)

(五十音順、敬称略)

3 調査対象者の基本属性

(1) 性別 (F 1)

	総数	男性	女性
平成26年	3,893人	1,887人	2,006人
	100.0%	48.5%	51.5%
平成21年	3,501人	1,581人	1,920人
	100.0%	45.2%	54.8%
平成16年	2,862人	1,329人	1,533人
	100.0%	46.4%	53.6%
平成11年	2,284人	1,054人	1,230人
	100.0%	46.1%	53.9%
平成6年 (65歳以上)	2,454人	1,121人	1,333人
	100.0%	45.7%	54.3%

(2) 年齢層 (F 2)

	総数	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85歳以 上
平成26年	3,893人	824人	919人	803人	625人	431人	291人
	100.0%	21.2%	23.6%	20.6%	16.1%	11.1%	7.5%
平成21年	3,501人	890人	880人	723人	564人	312人	132人
	100.0%	25.4%	25.1%	20.7%	16.1%	8.9%	3.8%
平成16年	2,862人	785人	735人	669人	386人	206人	81人
	100.0%	27.4%	25.7%	23.4%	13.5%	7.2%	2.8%
平成11年	2,284人	556人	689人	549人	313人	130人	47人
	100.0%	24.3%	30.2%	24.0%	13.7%	5.7%	2.1%
平成6年 (65歳以上)	2,454人	※	942人	720人	506人	286人	
	100.0%	※	38.4%	29.3%	20.6%	11.7%	

(3) 同居形態 (F 3)

	総数	単身世帯	夫婦二人 世帯	本人と親 の世帯	本人と子 の世帯	本人と子 と孫の世 帯	その他	無回答
平成26年	3,893人	477人	1,562人	273人	976人	406人	152人	47人
	100.0%	12.3%	40.1%	7.0%	25.1%	10.4%	3.9%	1.2%
平成21年	3,501人	413人	1,342人	217人	877人	566人	84人	2人
	100.0%	11.8%	38.3%	6.2%	25.0%	16.2%	2.4%	0.1%
平成16年	2,862人	246人	1,063人	158人	746人	570人	79人	-
	100.0%	8.6%	37.1%	5.5%	26.1%	19.9%	2.8%	-
平成11年	2,284人	221人	803人	132人	501人	576人	51人	-
	100.0%	9.7%	35.2%	5.8%	21.9%	25.2%	2.2%	-
平成6年 (65歳以上)	2,454人	220人	711人	※	444人	885人	194人	-
	100.0%	9.0%	29.0%	※	18.1%	36.1%	7.9%	-

4 調査結果の概要

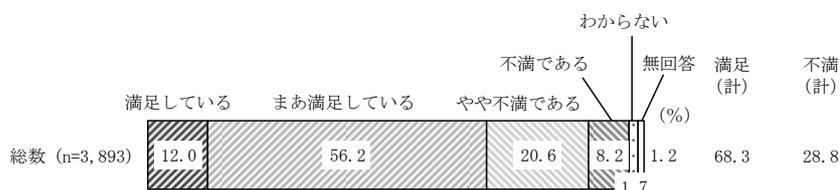
1. 基本的生活に関する事項

(1) 日常生活全般についての満足度

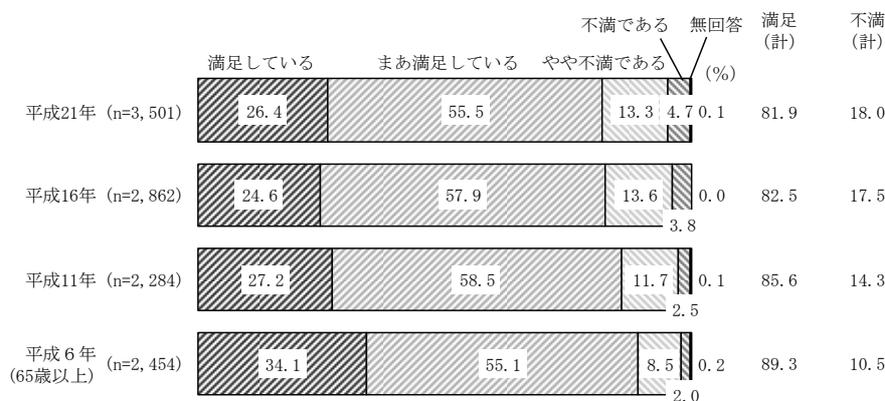
- ・日常生活全般について、「満足（「満足している」「まあ満足している」の計）」が、約7割（68.3%）となっているが、5年前と比べると13.6ポイント低下。
- ・健康状態別にみると、健康状態が良いほど「満足」とする割合が高い。また、経済状況がよくないと感じているほど、「不満（「不満である」「やや不満である」の計）」とする割合が高い。

Q1 「あなたは、ご自分の日常生活全般について満足していますか。」

(時系列・総数)

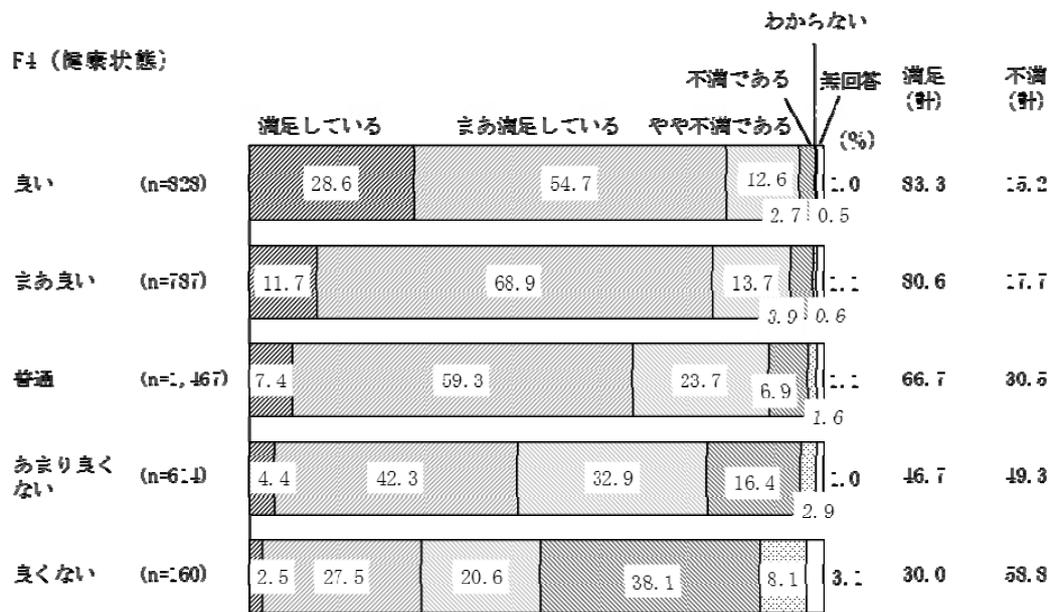


参考図 日常生活全般についての満足度（過去調査）

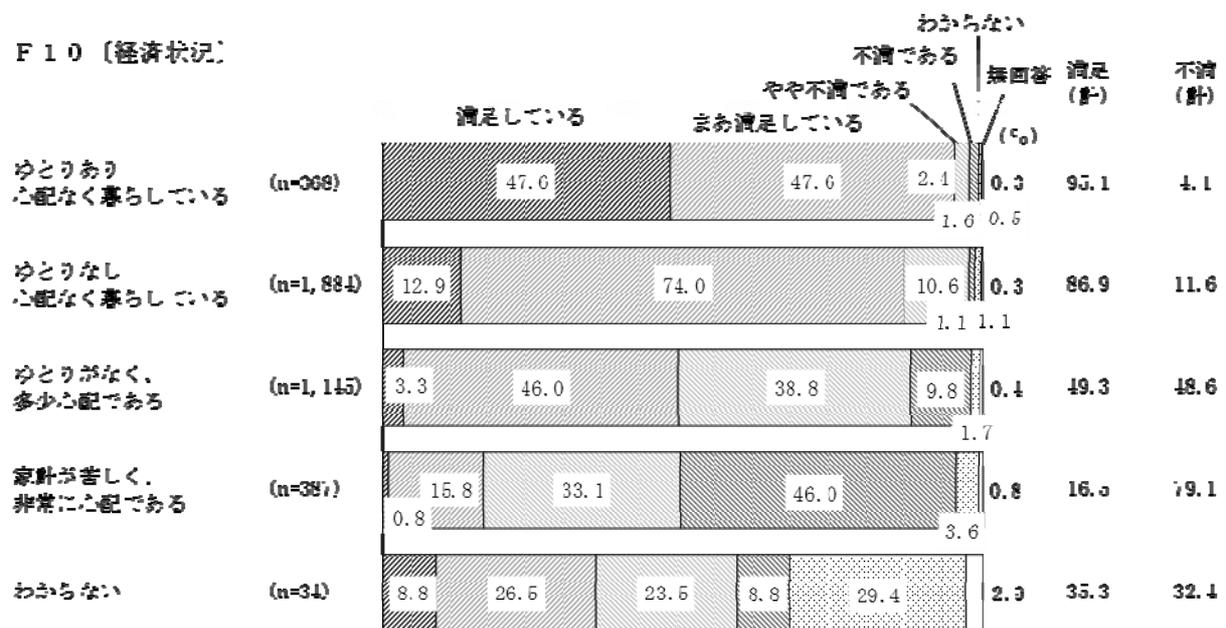


注) 平成21年までは、調査員による面接聴取法により調査しており、郵送配布・郵送回収法による今回調査と比較する場合は、調査方法の違いに注意が必要である。

(平成26年度・健康状態別)



(平成26年度・経済状況別)

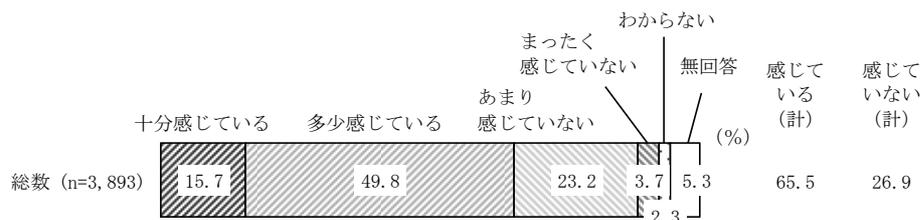


(2) どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じているか

・現在、どの程度生きがいを感じているかについて、「感じている（「十分感じている」「多少感じている」の計）」は65.5%で、5年前と比べると13.1ポイント低下。
 ・近所づきあいの程度では付き合いがあるほど、外出の頻度では頻度が多いほど、「感じている」とする割合が高い。

Q 2 「あなたは、現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。」

(平成26年度・総数)

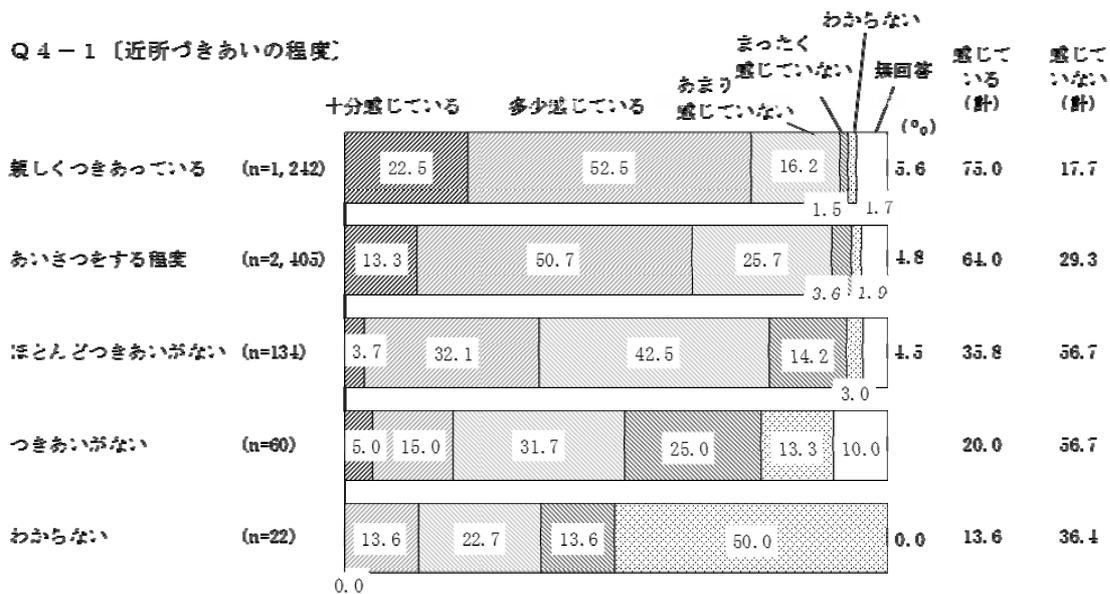


参考図 どの程度生きがいを感じているか（過去調査）

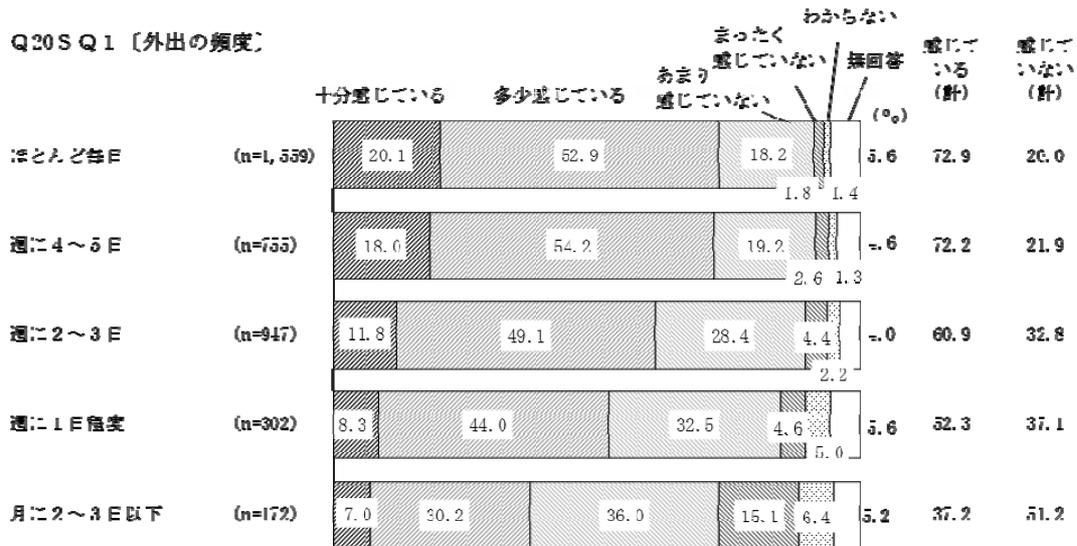


注) 平成21年までは、調査員による面接聴取法により調査しており、郵送配布・郵送回収法による今回調査と比較する場合は、調査方法の違いに注意が必要である。

(平成26年度・近所づきあいの程度)



(平成26年度・外出の頻度)

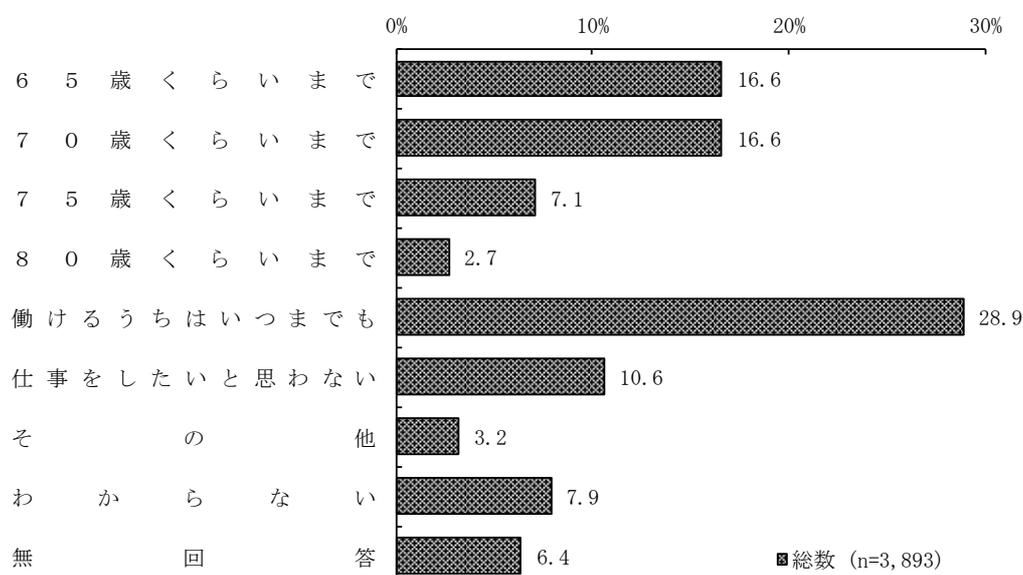


(3) 就労希望年齢

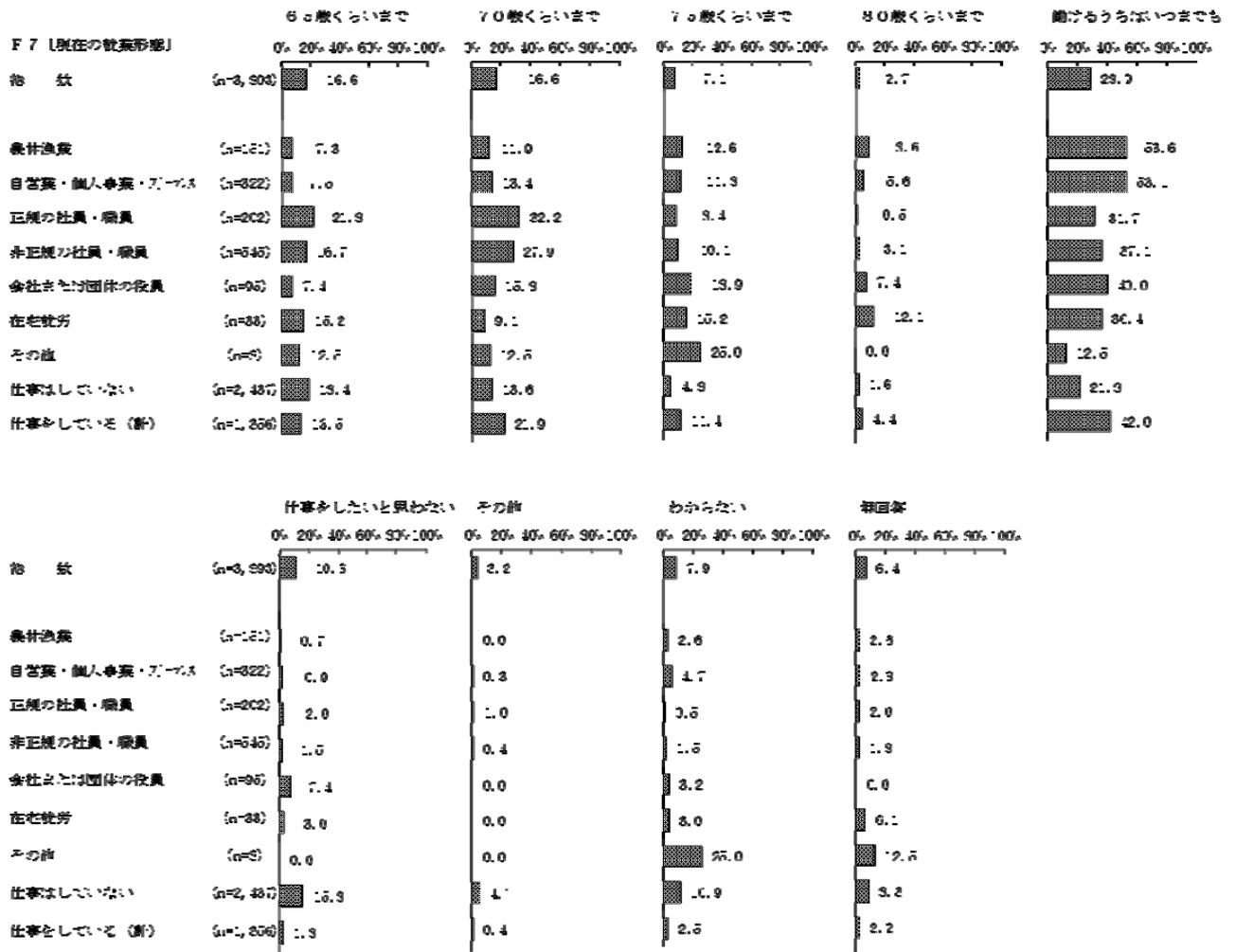
- ・就労希望年齢については、「働けるうちはいつまでも」(28.9%)が最も高い。
- ・総数で見た場合との乖離が大きなものについて、就業形態別では、正規の社員・職員、非正規の社員・職員で「70歳くらいまで」(正規の社員・職員32.2%、非正規の社員・職員27.9%)が、農林漁業、自営業・個人事業主・フリーランスで「働けるうちはいつまでも」(農林漁業53.6%、自営業等53.1%)とする割合が高い。

Q3 「あなたは、何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいですか。」

(平成26年度・総数)



(平成 26 年度・就業形態別)

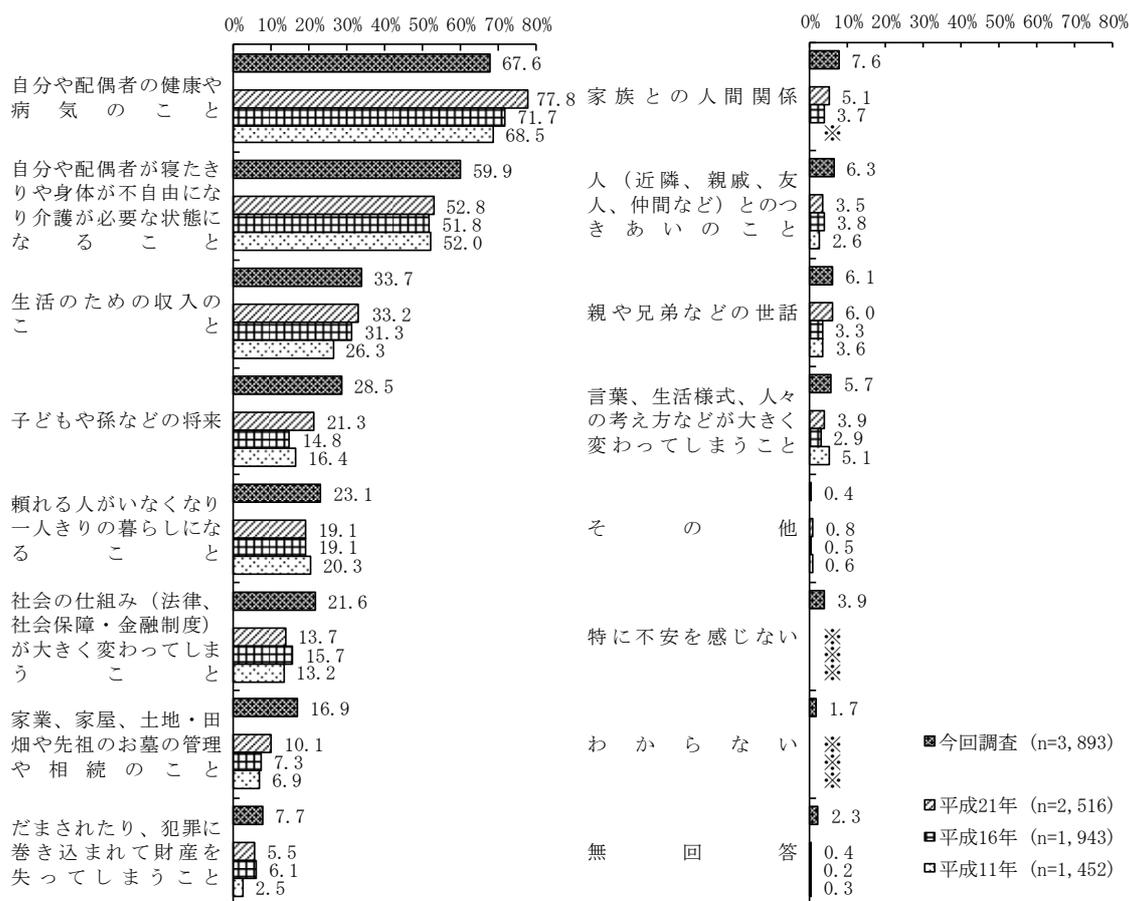


(4) 将来の日常生活への不安

・将来の日常生活への不安について、「自分や配偶者の健康や病気のこと」(67.6%)が最も高く、次いで「自分や配偶者が寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること」(59.9%)、「生活のための収入のこと」(33.7%)となっている。

Q7 「あなたは、将来の自分の日常生活全般について、どのようなことに不安を感じますか。」

(時系列・該当数)



注1) ※は調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

注2) 平成21年までは、不安を感じる人へのみに開いているが、今回調査では「特に不安を感じない」は3.9%と全体に占める割合が低かったため、そのまま過去調査と比較している。

注3) 平成21年までは、調査員による面接聴取法により調査しており、郵送配布・郵送回収法による今回調査と比較する場合は、調査方法の違いに注意が必要である。

(5) 健康や病気に対する不安の具体的な内容

- ・「自分や配偶者の健康や病気のこと」について不安を感じる人においては、「体力の衰え」(62.2%)とした割合がもっとも高く、次いで「認知症」(55.0%)、「がん」(45.5%)、「高血圧」(43.7%)となっている。

〔Q7で「『自分や配偶者の健康や病気のこと』について不安を感じる」と回答した人に〕
 Q7-SQ2「どのようなことに不安を感じていますか。」(複数回答)

(平成26年度・該当数)

